

「もう十分お腹一杯です！」

～真の平和を与えて下さる主イエス様～

主は、わたしたちのためにいのちを捨てて下さった。それによって、わたしたちは愛ということを知った。それゆえに、わたしたちもまた、兄弟のためにいのちを捨てるべきである。
ヨハネの第一の手紙3章16節

本日は広島に原爆が投下されてから72年目の記念の日です。

当時の人口約35万人の広島町で、16万人以上の人々が4か月の間に亡くなりました。また、56万人の人々が被ばくしたと言われています。そんな悲劇がなされたにもかかわらず、現在でも1万発以上の核兵器がこの地上に存在していると言われています。

来週の15日には日本では終戦記念日を迎えますが、お隣の朝鮮半島では、未だに戦争が継続しているままで、北朝鮮では核弾頭が搭載された長距離ミサイルが完成したという恐ろしい状況が現実となり、世界を震撼させています。

世界の平和はいつ訪れるのでしょうか？核兵器がなければ世界は平和になるのでしょうか？テロがなければ、戦争がなければ世界は平和になるのでしょうか？

イエス様はおっしゃいました、「剣(武器)を持つ者は、剣(武器)によって滅びる」。世界の平和は力によって作り出すことはできません。その証拠に、イエス様の時代も強大なローマ帝国によって蹂躪されていたユダヤ社会の人々も、武力に訴えていましたが、イエス様は、「そうではなく、愛によって」と説きました。「あなたがたは互いに愛し合いなさい」という新しい命令を弟子たちに与えられ、愛によってローマ帝国を支配するように導きました。主がこの命令をお伝えになった時、最後の晩餐で、自ら奴隷の姿になり、弟子たちの足を洗い始めました。

「師であり、教師である私があなた方の足を洗ったからには、あなたがたも互いに足を洗い合いなさい。」と語られました。その弟子の中にはイエス様を裏切ろうとしていたイスカリオテのユダもいました。イエス様はすでにユダが自分を裏切ることが皆に公表していたように、ユダの裏切りを御承知の上で、彼を赦し、受け入れ、愛をもって彼の足をも洗われました。

「互いに愛し合う」とは、互いの罪を赦し、洗い清めるという意味があります。自分を死に渡してしまうような敵でさえも、イエス様は愛し、受け入れなさいました。これこそが、真の平和を作り出すための愛の法則です。

イエス様は、次の日に、すべての人々のために十字架で死なれ、三日目に栄光の体にご復活なさいました。そして、永遠の救いの道を開かれました。そこに、永遠の平和の道が開かれたのです。真の平和は、神様との平和です。イエス様が開かれた赦しと愛の道を通り、神様との平和をいただくことで、すべての人々は真の平和を得ることができるのです。